



徳島市 来年度 予算案

ムダな大型公共事業を温存し 「財政難」…市民に「痛み」押しつけ

二月十六日、徳島市来年度予算案が報道されましたが、「あまりにもひどい」内容に大きな反響が広がっています。そこで今号は、その予算案のポイントを掲載することになりました。従って、掲載を予定していた『十六年度決算審査特別委員会』シリーズ・第三弾は次号以降になります。
三月六日、市議会が開会しますが、「ムダな大型公共事業を止めて、市民の命や暮らしを守れ」という立場でがんばります。

「財政難」だから

ガマンせよ…



「国民健康保険料」

全国トップクラスの

高い保険料を

さらに10%連続値上げ

今、市民の四十二％（世帯）が加入している国民健康保険（以下「国保」）ですが、その保険料は全国トップクラス（県庁所在都市で所得に占める保険料の割合が全国一位でしたが、今は三位）に高いんです。

それを今年度の七％値上げに引き続き、来年度も四％値上げする予算案です。



負担能力のない世帯に

高い保険料を押しつけ

徳島市の国保加入者の五十三％（約二万五千世帯）が、年所得〇～六十万円未満しかありません。

この世帯は生活保護基準以下で負担能力がありませんが、そこに高い国保料をかけて「払え」と迫っているんです。

滞納している世帯は、十六年度で約九千世帯ありますが、その六十八％は年所得が〇～六十万円未満しかない世帯…国保料を「払わない」のでなく、「払えない」のです。

短期保険証で『制裁』するやり方ではなく、ムダな大型公共事業を止め、国保料を値下げし、「低所得

者に減免制度」をつくり、「払える国保料」に改善すべきです。

「介護保険料」

一億九千万円の

繰入金を廃止し、

一ヶ月一〇〇〇円も値上げ

六十五才以上の介護保険料の基準額が、一ヶ月四千二百円から五千二百八十円に、千八十円も値上げする予算案です。

その大きな要因は、一般会計からの繰入金一億九千万円を廃止したこと。徳島新聞は「大幅増で、全国トップクラスの介護保険料」と報道しています。

「基本健康検査」

無料を千五百円に…

有料化とともに

受診率の低下が大問題

徳島県内で、基本健康検査を実施している自治体は二十五ですが、このうち有料は十七で受診率平均は三十％、無料は八で受診率平均は五十三・九％です。

徳島市の場合、有料であった昭和

【裏面に つづく】

六十三年の受診率は三十四・四％ですが、無料化した現在は六十・六％までアップしていき



受診率を高めたことが検診結果に基づいて糖尿病など生活習慣病の予防促進を図ったり、早期発見・早期治療をすすめるなどに結実しています。

無料を千五百円にすることは、市民の負担増と併せ、受診率の低下も招く大問題です。

敬老祝い金

「ここまで冷たい原市政」

喜寿の二万円を廃止

「原市政は、「ここまで冷たいのか」と驚きの声があがっているのが、喜寿の祝い金の廃止。

高松市は喜寿に一万円、米寿に二万円。松山市は喜寿に二万円、米寿に三万円を現金で支給しています。

鉄道廃止事業などをついに「財政難」の解決策を



来年度もムダな大型公共事業は見直さず、温存したまま…「財政難」を理由に市民に「痛み」を押しつける悪政を止め、ムダな大型公共事業の中止や見直しで、「財政難」の解決をすすめるべきです。

走っていない牟岐線ですが、鉄道高架完成予定の二十年后に存続しているかどうか疑問です。

しかも二軒屋地区は「鉄道高架を伴うまちづくりには、一切応じない」との態度で一貫しています。

1000億円の「鉄道廃止」町壊しと財政破壊

鉄道高架計画（出来島く文化の森駅）の大半が『牟岐線』…乗客は少なく、一時間に二〜三本しか列車が

1110億円の「農地防災」水を旧吉野川から吉野川に替えるだけ

数年前まで川内町の農業用水は生

活排水が流れ込み汚れていましたが、県営事業でパイプラインが布設され、旧吉野川のきれいな水で農業が営めるよう改善されています。

この「農地防災」事業は、旧吉野川の水を、わざわざ吉野川の水に切り替えるためだけに行われている、ゼネコンのためのムダな大型公共事業の典型…事業を中止すべきです。

しかも吉野川の水に切り替えた場合、その取水口は徳島市の水道水源の直近で、そこから大量の水を取水すれば、水位が下がって水道水が腐る可能性が大きいと、指摘されています。



1000億円の「流域下水道」事業から撤退し

合併浄化槽と山をきれいに

徳島市（川内・応神）、鳴門市、板野町、藍住町、北島町、松茂町の生活排水を、松茂の終末処理場に集める計画の「旧吉野川流域下水道」事業。二千億円もする巨大事業ですが、これを仮に合併浄化槽で行えば、六百億円でできると試算されています。

さらに合併浄化槽は、公共下水道と同様の処理能力がある上、設置も二週間もあればできる優れもので、公共下水道の建設が十年〜二十年もかかるのとは大違い。合併浄化槽の方が、川をきれいにする効果が大きいのは歴然としています。



157億円「広域農道」猿やインシシが通らない…立派な道路

「広域農道」は、上勝町から徳島市の八多町まで、山の上の方に立派な道路を建設している県営事業の負担金ですが、地元の人たちが「猿やインシシしか通らない」と揶揄しているムダヅカイの典型工事です。

「みかんなど農産物を輸送する目的」につくっていますが、地元の人たちは「こんな道路をわざわざつくらなくても、今の道路を使って農産物を輸送しており、それで充分」と言っています。

